

岩手県野田村の支援・交流活動報告（2015年9月12日）

前日までの雨が上がり、無事に予定通り弘前を出発することができました。今回は、久しぶりに41人（現地集合・現地解散の学生を含めると42人）の大人数で野田村を目指します。今回のボランティア活動は、高台の団地に移転される方たちの交流会のお手伝いをする予定です。珍しく1か所に止まって活動することになっていました。予定では、11時に開会し、まず日本舞踊の披露の第一部が行われ、それから全員で焼き肉などの会食、高台の見学会、引き続き第二部の日本舞踊の披露があり、14時頃終了となっています。高台移転をされる方々を集めての企画は初めてということで、どのくらい人が集まってくれるか不安を持ちながら野田村を目指しました。



道の駅「おりつめ」での集合写真

ほぼ予定通り野田村に着き、先に準備をしていた、野田村社会福祉協議会、NVNAD、関西学院大学、八戸高専の皆さんと合流し、交流会の準備をしました。弘前大学は、おにぎりやお餅、ジュースなどを配る係と、フロアで食べ物を運ぶ係を受け持つことになっていました。



交流会会場の準備の様子

11時に交流会がスタート。開会のあいさつの後、弘前から参加していただいた西川流宝翔会の日本舞踊の披露が行われ、ボランティア参加者も、鑑賞させていただきました。

復路のバスの中での感想でも、「初めて生の踊り見させてもらった。素敵な踊りだった。」
「今日は日本の伝統芸能を堪能させてもらった。素晴らしかった。」という声が聴かれ、「一年に一回は日本舞踊を披露してもらった方がいい。」という提案までありました。



開会の挨拶と日本舞踊の披露の様子

第一部の披露が終わったところで、交流会会場のバス車庫に移動し、交流会が始まります。今日は、焼き肉、豆腐田楽、おむすび、お餅が振る舞われ、学生・市民のボランティアは、食べ物を運んだり、一緒に食事をしたりして、楽しい時間を過ごすことができました。肉が次々と焼かれ、お餅があつという間になくなり…、野田村の皆さんだけでなく、ボランティア参加者もお腹一杯いただきました。

交流会の感想としては、「全般的にいろんなところから。熱意感じられた。やる気満々で盛り上がった。今回はいつもと違うのは男性が結構いらっしゃった。お話できてよかった。」また、反省として、「初めて参加したが、自分の力不足を感じた。次回は自分から動いて交流したい。」「後片付けでテキパキ働けなかった。次回はもう少ししっかり働きたい。」という声もありました。



交流会の様子

交流会の途中で、高台団地の見学会が行われました。入居予定の皆さんだけでなく、ボランティアの一部も参加させていただきました。参加したボランティアからは、高台を切り崩して造成したことに驚きの声が上がっていました。実際に見学した感想として「野田村の人たちが家を楽しみにしている姿を見てよかったなと思った。」「野田のおばあちゃんが『来年新しい家に入れる』と言って喜んでいるのが嬉しかった。」「復興が進んでいるようで安心した。」というものがありました。



見学会の様子

高台団地の見学会から参加者が戻ったところで、日本舞踊の第二部の披露です。そしてすべてのプログラムの最後に、参加者全員でゲームをし、野田村社会福祉協議会の大平さんの三本締めで交流会は無事終了しました。終了後、他のボランティア団体の皆さんと協力して、後片付けをして野田村を後にしました。



三本締めで交流会終了

今回は、野田村の皆さんとの交流はもちろんですが、ボランティア団体間の学生同士で交流ができたようです。違う団体の学生同士と一緒に写真を撮っている光景を頻繁に見ましたし、帰る際にも名残惜しそうにお別れをしているシーンが印象的でした。

今回の交流会は、20人前後の方が参加してくれましたが、予想よりもかなり少ないとい

うことでした。これについては、ボランティア参加者からも「思っていたとの違う。」「会場が野田の人たちで一杯になると思っていた。」という感想も聞かれました。しかし、第1回の交流会なので、まずは開催することができ、野田村の皆さんが集まって下さったということが重要なのだと思います。チームオール弘前の活動でガレキ撤去などの支援活動から茶話会などの交流活動に変わった時も、参加者はほとんどいない状態で、そこから徐々に参加者が増えて行きました。同じように、継続的に交流会を行っていくことが重要で、そこに協力していくことができればと考えています。

最後に、私が前回担当した7月18日は、台風11号が近畿地方に大雨を降らせた翌日でしたが、今回は北関東・東北地方に大雨による甚大な被害が生じた翌日でした。堤防が決壊して水があふれ出した様子は、東日本大震災の津波による被害を彷彿とさせるものです。今回の大雨で被災された皆さんが一刻も早く元の生活に戻られることを心から願いたいと思います。

(担当 平野 潔)